

徳島県



香川県

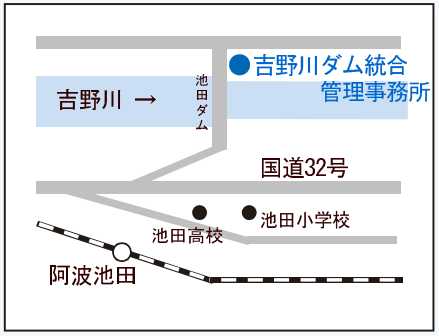


愛媛県



高知県

水の恵みに感謝



国土交通省四国地方整備局
吉野川ダム統合管理事務所

〒778-0040
徳島県三好市池田町西山谷尻4235-1
TEL：0883-72-3000　FAX：0883-72-4294
https://www.skr.milt.go.jp/yoshino/index.html



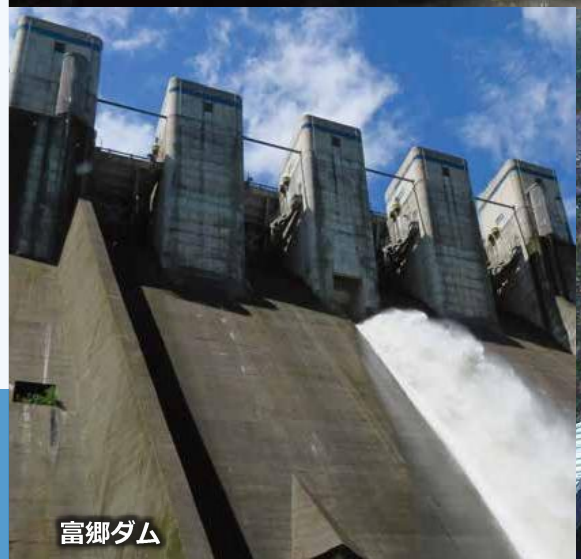
早明浦ダム



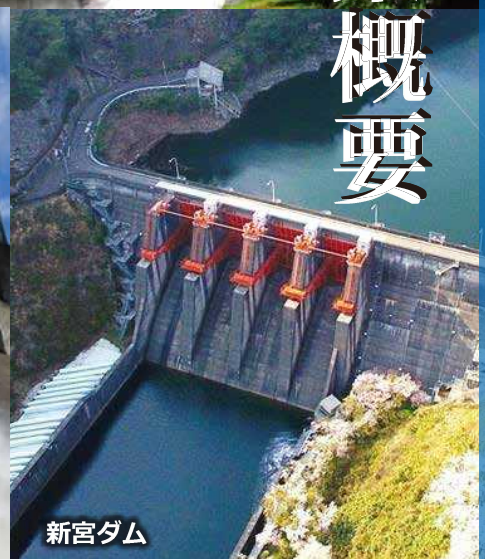
池田ダム



柳瀬ダム



富郷ダム



新宮ダム

国土交通省四国地方整備局 吉野川ダム統合管理事務所

事業概要

ダム統合管理により豊かで安定した吉野川へ

吉野川ダム統合管理事務所の役割

吉野川は、その源を高知県の瓶ヶ森（1,897m）に発し、徳島平野から紀伊水道に注ぐ基幹流路延長194kmの四国最大の河川です。流域面積が四国の約20%を閉める吉野川水系は、昔から水資源の宝庫として注目されていましたが、同時に洪水が頻発する暴れ川としても有名でした。

吉野川の洪水を防ぎながら、この豊富な水資源を活用するための吉野川総合開発計画によって生まれたのが早明浦ダムを中核とした富郷ダム、柳瀬ダム、新宮ダム、池田ダムのダム群です。

そして、これらのダム群を連携させ、より大きな効果をあげることができるようにコントロールしているのが吉野川ダム統合管理事務所です。

吉野川のダム群は、豊かな河川環境を維持し、洪水や渇水から暮らしを守り、四国の発展を支えています。


吉野川ダム統合管理事務所


富郷ダム（水）


柳瀬ダム（国）


新宮ダム（水）

【ダム名の凡例】
（水）：水資源機構 吉野川上流総合管理所
（国）：国土交通省 四国地方整備局 吉野川ダム統合管理事務所
（四）：四国電力株式会社

【ダム、堰、分水、用水の凡例】
■■：吉野川総合開発一連事業によるダム・堰
■■：上記以外のダム・堰
：吉野川総合開発一連事業による分水・用水
：上記以外の分水・用水

池田ダム（水）

早明浦ダム（水）

Contents

◆ 吉野川総合開発計画・・・・・・・・・・・3
◆ 水の適正な利用・・・・・・・・・・・・・4
◆ 治水　～ダムによる洪水調節～・・・・・・5
◆ ダムの弾力的管理による河川環境改善・・・6
◆ ダムの統合管理による渇水調整・・・・・・7
◆ 早明浦ダム周辺地区のかわまちづくり・・・9
◆ 災害に備えて　・・・・・・・・・・・・・11
◆ インフラ分野のDX推進　・・・・・・・・・13
◆ レーダ雨量観測所の運用管理　・・・・・・14
◆ 防災教育・総合学習に関する取組　・・・・15
◆ ダム諸元　・・・・・・・・・・・・・・・16
◆ 事業の経緯　・・・・・・・・・・・・・・17

吉野川総合開発計画

吉野川における水利用の歴史

吉野川は、利根川の「坂東太郎」、筑後川の「筑紫次郎」と並んで「四国三郎」の異名を持つ日本三大暴れ川の一つとして知られています。

その流域は四国全県におよび、四国山地を境に多雨地域と、小雨地域とに分かれています。多雨地域の徳島県では洪水被害に古くから多くの人々が苦しめられ、高知県では四国山地の急峻な地形に阻まれ豊かな水源を利用できずにいました。小雨地域の香川県・愛媛県では慢性的な水不足に悩まされ、時には大干ばつを経験してきました。

このような背景から、戦後、四国における復興のためには吉野川の治水・利水を兼ねた水系の一貫管理が必要との考えが生まれ、これを基に四国４県におよぶ吉野川水系の水を活用する「吉野川総合開発計画」が1966年(昭和41年)にまとめられました。

四国は一つ



「吉野川総合開発計画」は1948年(昭和23年)の国や電力会社による基礎調査に始まり、1950年(昭和25年)の国土総合開発法の制定から経済安定本部による吉野川の開発計画案が示され、これが原型となっています。

四国では、四国４県知事会議において四国地方総合開発特別法制定の要望を決議し、その機運は高まったものの、受水側と分水側それぞれの異なる考え方から交渉は難航することとなりました。

様々な試案が続出しながら1955年(昭和30年)に早明浦ダムを中心とした5つのダム(柳瀬ダム除く)を築造する調整試案も協議はまとまらず、1960年代の日本の高度経済成長が始まるに伴って再び計画の調整が始まりました。

1960年(昭和35年)に「四国地方開発審議会」が発足し、これに「吉野川総合開発部会」を設置、1962年(37年)に「吉野川総合開発に関する審議会」を加えた計画実現に向けた体制が整いました。協議の焦点は分水・水没地対策・経費負担と四国４県が容易に合意出来るものではなかったため、一本化には難航を極めたものの、1966年(昭和41年)に最終案がまとまりました。これらの問題を解決に導いたのが賛同主旨であった「四国は一つ」という理念でした。

この理念は、吉野川の水利用において今も引き継がれており、吉野川ダム統合管理における揺るぎない支えとなっています。



早明浦ダム周辺　航空写真



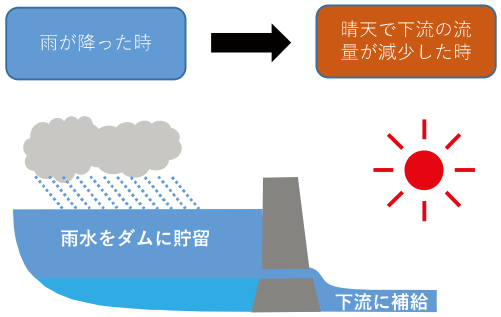
池田ダム周辺　航空写真

水の適正な利用

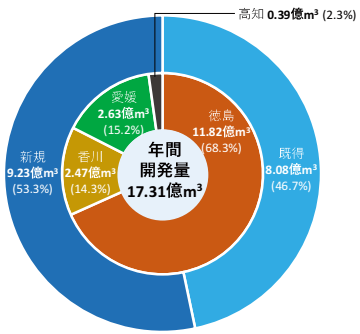
吉野川ダム群の水が支える四国の発展

吉野川流域の降雨は梅雨期と台風期に集中するため、河川の水が多いときと少ないときの差が極めて大きい河川です。

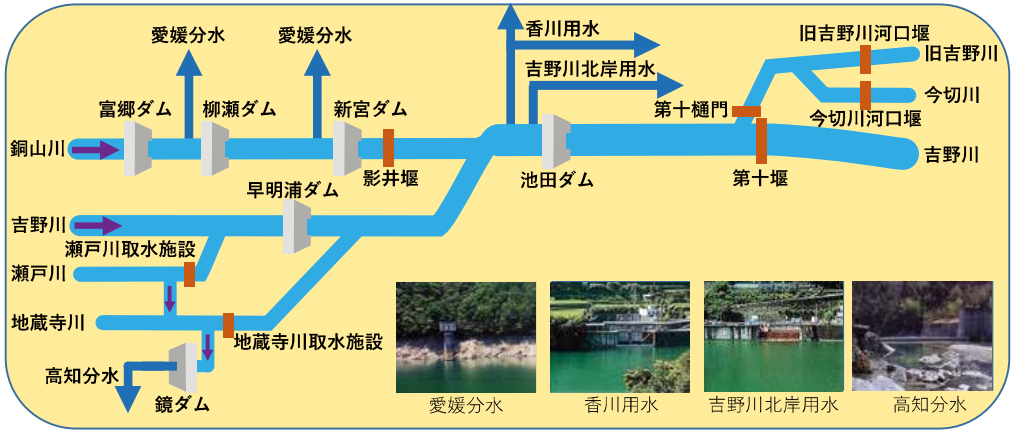
また、吉野川は水利用の厳しい河川でしたが、吉野川総合開発計画により、早明浦ダムを中核とする５つのダム群により広域的な水利用がなされ水道・農業・工業用水として四国4県に送られ、産業の発展や豊かな生活に役立てられています。



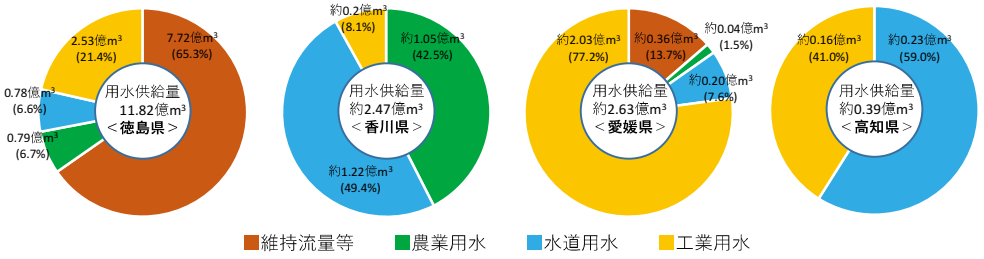
■四国4県への用水配分



吉野川ダム群で開発した水を利用する仕組み



吉野川総合開発に関する県別用水供給



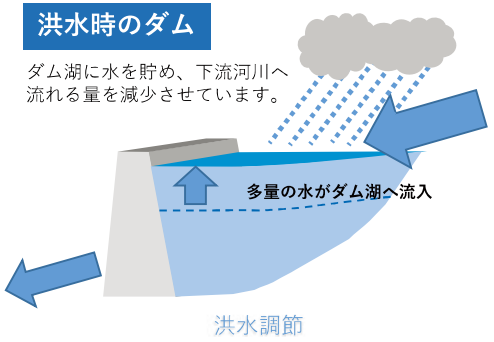
治水　～ダムによる洪水調節～

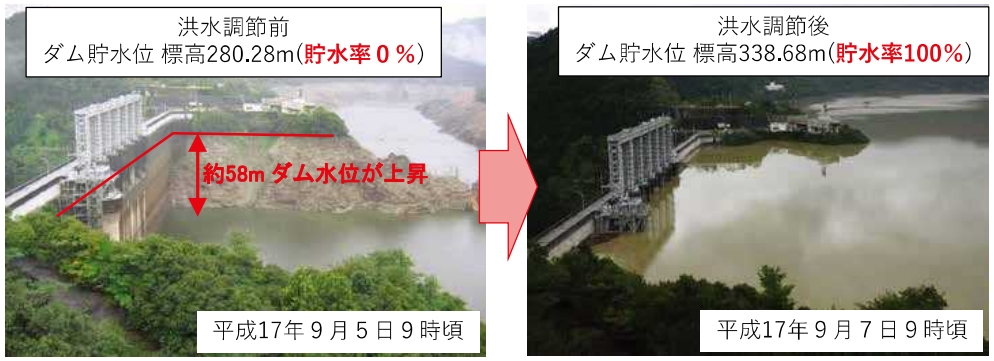
吉野川ダム群による洪水被害軽減

台風や前線の活動等により大雨が予測される場合には、降水量や河川への流出量を予測し、ダム群による事前放流、予備放流及び洪水調節を検討します。

洪水が発生した場合には、ダム群を連携させて放流量を低減させる洪水調節を行いダム下流の洪水被害を軽減しています。

平成17年は大渇水に見舞われ、早明浦ダムの利水容量が底をついていましたが、台風14号の降雨により一夜にしてダムの貯水率が100%に回復し、吉野川下流において計画規模を超える洪水にも係わらず、貯水率が０％であったため洪水被害を最小限に抑えることが出来ました。



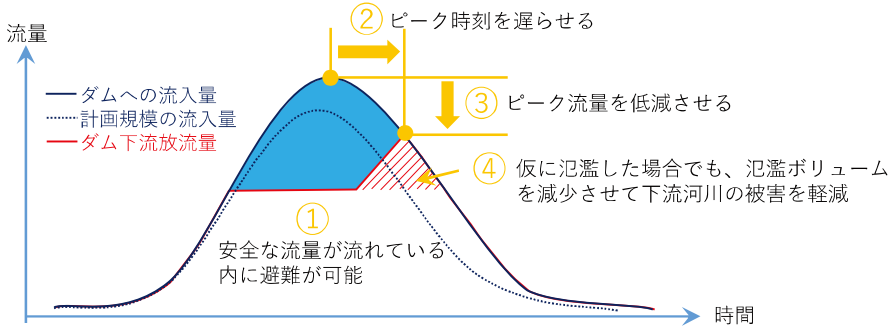


異常洪水時防災操作（緊急放流）

緊急放流とは、ダムが満水に近づいた時に行われる操作のことで、上流からダムに入ってくる水とほぼ同じ量の水を、そのまま下流に流すことを言い、正式には『異常洪水時防災操作』といいますが、現在は『緊急放流』という言葉で多くの人に知られています。

緊急放流を行った場合、これまでの操作に比べてダム下流で水位が急上昇したり、氾濫が発生することはありますが、ダムがない場合と比較すると、４つの効果があります。

①安全な流量が流れている内に避難が可能
②ピーク時刻を遅らせる→避難時間を確保
③ピーク流量を低減させる→下流河川の被害を軽減
④仮に氾濫した場合でも、氾濫ボリュームを減少させて下流河川の被害を軽減

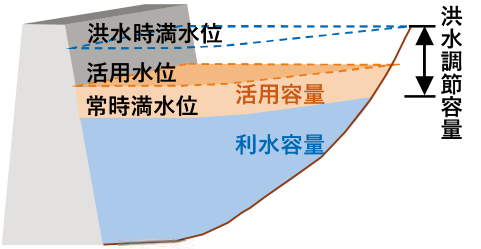


ダムの弾力的管理による河川環境改善

ダムの弾力的管理

ダムの弾力的管理は、洪水調節に支障を及ぼさない範囲で、洪水調節容量の一部に流水を貯留し、これを適切に放流することにより、ダム下流の河川環境の整備と保全等に資することを目的に行うものです。

ダムの弾力的管理は、洪水調節容量を利用して実施するため、これに活用できる水量は限られたものとなります。

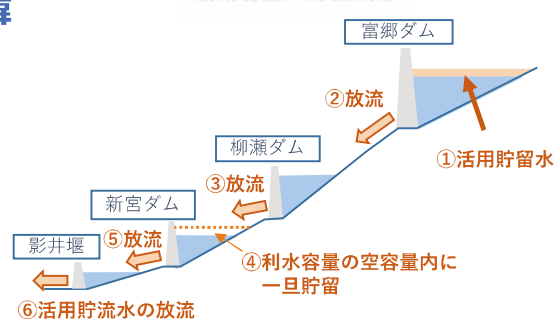


活用容量の貯留概念

銅山川の弾力的管理導入経緯

新宮ダムの管理開始以降、新宮ダム下流は無水・減水区間となり、さらに富郷ダムの建設でさらなる河川環境の悪化が懸念されたことから、新宮ダム下流に建設した影井堰および新宮ダムに貯留する環境用水を運用して、影井堰から0.042～0.17㎥/sの一定量放流する取り組みを行ってきました。

平成22年4月からは、富郷ダムの洪水調節容量の一部に流水を貯留し河川環境改善のために活用する弾力的管理試験を開始し、平成22年度から+20cm、令和2年度から+30cm、令和6年度から+40cm、令和7年度から+60cmと順次拡大を図り、令和7年度からフラッシュ放流を年3回定期的に試験する取り組みを行って、河川環境改善に取り組んでいます。



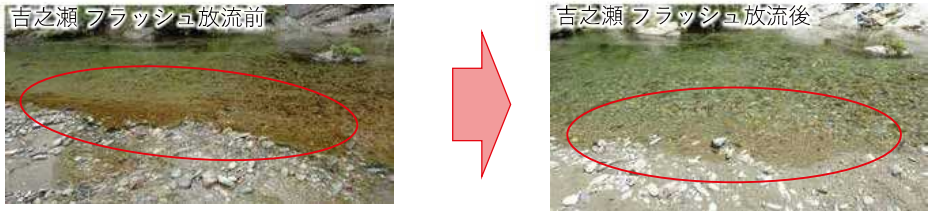
活用貯留水移動の流れ

富郷ダムに貯留した流水（活用貯留水）を順次下流ダムに放流し、影井堰からフラッシュ放流を行っています。

年　代	銅山川における河川環境に関する経緯
平成21年～	富郷ダムの弾力的管理「洪水調節容量の20cm分（25.6万m³）」を設定 計8回の社会実験を実施し、放流方法（1m³/s～10m³/s）を検討。 ※平成27年度から10m³/s×3時間のフラッシュ放流を決定。
令和2年～	富郷ダムの弾力的管理「洪水調節容量の30cm分（38.4万m³）にUP」 ※10cm分をフラッシュ放流に使用し、残りの20cm分をフラット放流に使用
令和6年～	富郷ダムの弾力的管理「洪水調節容量の40cm分（51.2万m³）にUP」 ※10cm分（12.8万m³）を15m³/s×１時間×２回のフラッシュ放流を実施。
令和７年～	富郷ダムの弾力的管理「洪水調節容量の60cm分（76.8万m³）にUP」 ※15cm分を3回のフラッシュ放流に使用し、残りの45cm分をフラット放流に使用 新宮ダムに弾力的管理「洪水調節容量の60cm分（42.0万m³）」を設定 ※60cm分をフラット放流に使用

フラッシュ放流による環境改善効果

フラッシュ放流（15m3/s×1時間）を実施することにより水際に繁茂していた付着藻類や藻類で茶色く色付いた砂礫部分が放流によって洗い流される効果があります。



ダムの統合管理による渇水調整

利水供給効果を発揮する吉野川上流ダム群

吉野川水系では、しばしば渇水が発生しますが、その度に吉野川上流ダム群に貯留された水を利用している関係者が協議して、取水制限を行うなど利水容量を長く有効に利用するための調整を行っています。昭和50年から令和5年までの49年間のうち、吉野川では30年、銅山川では44年において自主節水を含めた取水制限を行っており、ダムからの補給がなければ、吉野川の流量は減少し、水道用水をはじめとする都市用水、農業用水の取水が困難となり、住民生活に大きな影響を与えていたと考えられます。

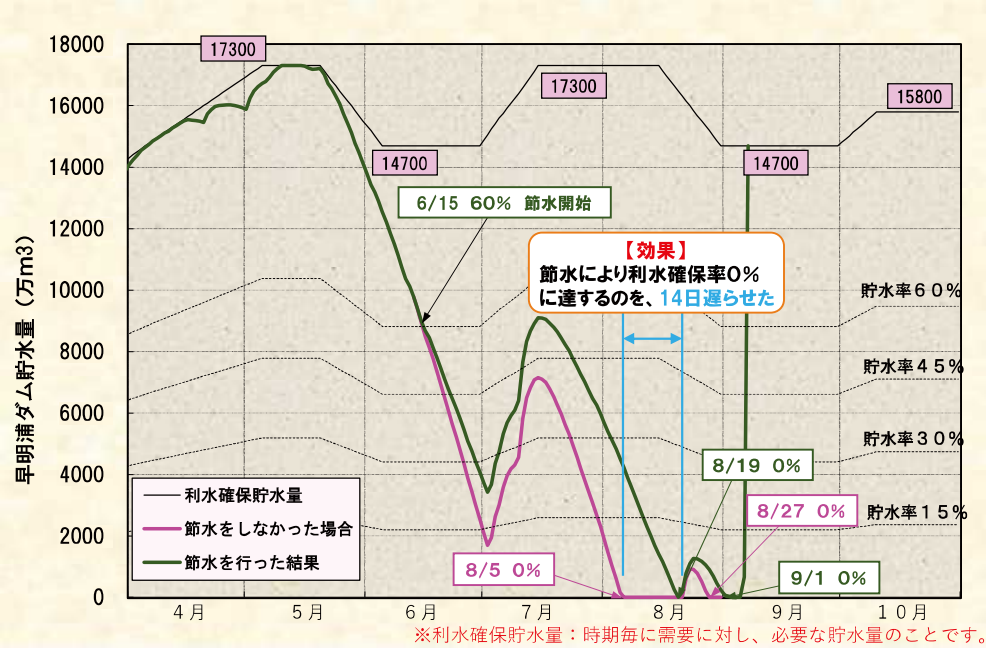


平成17年9月5日　早明浦ダム利水貯水率０％の状況



応急給水基地の設置の状況
（平成6年　高松市）

平成17年（2005年）夏渇水（吉野川本川）では、早明浦ダムで取水制限を実施していなければ、8月5日にはダムの利水容量が底をついていたと推定されますが、取水制限の実施によりダムの貯水量を14日長く利用することができました。



平成17年夏渇水の節水効果

過去の渇水状況（吉野川・銅山川）

渇水発生年	吉野川の取水制限期間（月） 4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	取水制限総日数	銅山川の取水制限期間（月） 4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	取水制限総日数
S51（1976年）													0日													23日
S52（1977年）					■								29日					■								20日
S53（1978年）													0日		■				■	■	■	■	■	■		175日
S55（1980年）													0日											■	■	50日
S56（1981年）													0日							■	■	■	■	■		126日
S57（1982年）				■									21日							■	■					29日
S58（1983年）					■	■							55日					■	■		■	■	■	■	■	187日
S59（1984年）								■	■	■	■	■	133日						■	■	■	■	■	■	■	173日
S60（1985年）													0日							■	■	■	■	■	■	155日
S61（1986年）						■							8日	■							■	■	■	■	■	181日
S62（1987年）												■	34日		■	■								■	■	93日
S63（1988年）	■				■			■	■	■	■	■	116日	■							■	■	■	■	■	155日
H1（1989年）													0日								■	■	■	■		118日
H2（1990年）					■								22日					■						■		28日
H3（1991年）													0日									■	■			53日
H4（1992年）				■									9日				■				■			■	■	59日
H5（1993年）													0日	■												9日
H6（1994年）			■	■	■	■	■	■				■	158日			■	■	■	■	■				■	■	183日
H7（1995年）	■					■	■		■	■	■	■	200日	■					■	■	■	■	■	■	■	240日
H8（1996年）	■						■	■					118日	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	273日
H9（1997年）						■						■	76日			■				■	■					54日
H10（1998年）	■												12日						■	■			■	■	■	106日
H11（1999年）					■								8日	■							■	■				55日
H13（2001年）			■	■	■								87日			■	■								■	82日
H14（2002年）			■										17日	■	■	■	■				■	■	■	■	■	251日
H15（2003年）													0日	■	■										■	72日
H16（2004年）													0日	■	■											50日
H17（2005年）			■	■	■								84日		■	■	■	■	■		■	■	■	■		247日
H18（2006年）													0日								■	■	■	■	■	135日
H19（2007年）		■	■										52日	■	■	■	■					■	■	■	■	218日
H20（2008年）				■	■	■	■	■	■	■	■	■	124日				■	■	■	■	■	■	■	■	■	204日
H21（2009年）			■	■	■								137日			■	■	■	■	■						156日
H22（2010年）													0日						■	■	■	■	■	■	■	191日
H23（2011年）													0日	■	■	■								■		88日
H24（2012年）				■									5日			■										21日
H25（2013年）					■								34日			■	■	■	■							125日
H26（2014年）				■									5日			■	■									40日
H27（2015年）													0日									■				27日
H28（2016年）					■	■							44日						■						■	29日
H29（2017年）			■	■	■	■							95日	■	■	■	■	■						■	■	150日
H30（2018年）					■								10日									■	■	■	■	101日
H31 R1（2019年）	■	■	■										65日	■	■	■	■	■								113日
R2（2020年）													0日				■						■	■	■	89日
R3（2021年）				■	■							■	71日			■	■	■	■			■	■	■	■	260日
R4（2022年）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	191日	■	■	■	■	■	■	■			■	■	■	296日
R5（2023年）	■										■	■	45日	■	■					■	■	■	■	■	■	213日
R6（2024年）					■	■							15日	■								■	■	■	■	123日

取水制限日数：一時解除日含む

早明浦ダム周辺地区のかわまちづくり

早明浦ダム周辺地域のさらなる魅力向上へ

早明浦ダムとその周辺地域は、豊かな自然に恵まれ、ダム周辺の本山町・土佐町・大川村では、ダム湖（さめうら湖）や吉野川の水辺を活用した観光振興、地域活性化等が重要な施策として位置づけられています。
「早明浦ダム周辺地区かわまちづくり」を通じて国・県・町村および民間や関係団体が連携し、早明浦ダム周辺地区の水辺の利活用および地域活性化を促進しています。



■「かわまちづくり」とは
地域活性化や観光振興などを目的に、地域が持つ景観、歴史、文化、観光基盤などの「資源」や 「知恵」を活かし、市町村・住民・河川管理者の連携のもと「河川空間」と「まち空間」が融合した 良好な空間形成を目指す仕組みです。

ソフト施策



地元高校の生徒が
ダム湖を活用したイベントを開催



早明浦ダム下流は四国屈指の
カヌー・ラフティング拠点



本山町・土佐町・大川村を巡る
スタンプラリーの景品として配布

ハード整備

○整備の内容：大川村役場前にスロープを整備



○整備後の効果：ダム湖へのアクセスが可能となり、
遊覧船の運航が開始されました。



○整備の内容：さめうら荘、カヌーテラス前に
遊歩道を整備



○整備後の効果：ダム活用へのアクセスが容易となり、
ダム湖の利活用が活発になっています。





今後のかわまちづくり

地域最大の資源である「早明浦ダム」を中核として、カヌーのまちづくりや定期遊覧船運航等、スポーツツーリズムやレジャーによる水辺利活用の活発化、また宿泊、体験活動、インフラツーリズムの充実等を推進し、3つの水辺拠点エリアの連携・情報発信等により地域の魅力向上と地域全体の活性化の波及・拡大を図ります。



※今後、工事実施のための詳細な設計等を実施することにより、実施内容を変更する場合があります。

災害に備えて

防災に関する意見交換会

吉野川上流域の防災に関する意見交換や勉強会等を行うことにより、風水害及び地震災害時等における連携強化、被害の防止、軽減を図ることを目的とした流域自治体との意見交換会を実施しています。

【構成メンバー】
美馬市・三好市・東みよし町・つるぎ町・四国中央市・本山町・大豊町・土佐町・大川村
水資源機構吉野川上流総合管理所・
国土交通省吉野川ダム統合管理事務所


防災に関する意見交換会

～開催時期、概要～

① 出水期前（4月中旬～5月中旬）
ダムの予測手法とダム管理及びダムからの情報提供についての勉強会
② 前線や台風接近に伴い洪水が予測される場合
ダム流況データ等からの情報提供や自治体の対応状況等についての情報交換
③ 地震発生時（震度5強以上を観測）
各機関の被災状況、支援に関する情報交換
④ 南海トラフ地震
南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）発表時における各機関の対応状況についての情報交換

被災した自治体への支援

国土交通省緊急災害対策派遣隊「TEC-FORCE（テックフォース）」は、大規模な自然災害時に、被害状況の迅速な把握、被害の発生及び拡大の防止、被災地の早期復旧などに取り組み、地方公共団体を支援します。
TEC-FORCEはその技術力を活かし、大規模自然災害が発生して自治体職員だけでは対応が難しい場合に、いち早く被災地へ出向き、被災した自治体を支援します。
吉野川ダム統合管理事務所からも、令和6年度能登半島地震の被災地支援に隊員を派遣し、被災地での支援活動を行いました。


TEC-FORCEの派遣


被災地での支援活動

洪水対応演習

梅雨や台風等により雨が多くなる出水期に備え、洪水警報やダム放流情報等の防災情報を、関係機関へ迅速かつ的確に伝達対応を図り、防災体制の万全を期するために、毎年洪水対応演習を実施しています。
ＷＥＢ会議システムを最大限活用し、現場との迅速な情報伝達および関係機関との連携などを確認します。


災害対策室での演習の様子


WEB会議での現場との情報伝達

～演習概要～

① 情報の収集・連絡体制の確認
② 関係機関へのダム放流通知等の情報伝達の演習
③ ホットライン（関係市町村と事務所長）による情報共有の演習
④ ダムなど河川管理施設等の操作ルール・操作状況確認及び情報伝達の演習
⑤ 地域の的確な避難判断、行動につながる情報等の提供
⑥ 迅速な広報活動等の演習
⑦ 警報及び巡視の訓練等

急な増水に備えて　～ 防災情報 ～

川の防災情報　https://www.river.go.jp/index

川の防災情報は、身近な「雨の状況」、「川の水位と危険性」、「河川監視カメラ画像」をリアルタイムで配信するウェブサイトです。

①地図から探す、または地点を登録



②現在の避難情報、気象警報情報、川の水位等を確認



インフラ分野のDX推進

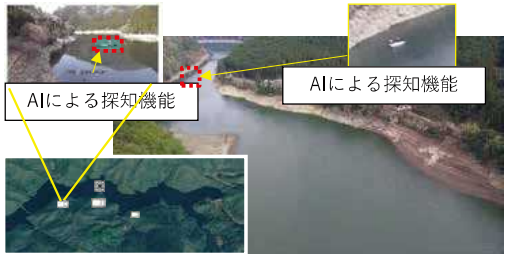
DXに向けた取組

DXとは「Digital Transformation（デジタルトランスフォーメーション）」の略称です。社会経済状況の激しい変化に対応し、インフラ分野においてもデータとデジタル技術を活用して、国民のニーズを基に社会資本や公共サービスを変革すると共に、業務そのものや、組織、プロセス、建設業や国土交通省の文化・風土や働き方を変革し、インフラへの国民理解を促進すると共に、安全・安心で豊かな生活を実現すべく、取組みを推進しています。吉野川ダム統合管理事務所では、少ない職員で効率的、且つ高度で持続可能なダム管理の運用を図るために、３Ｄ地形図データや施設の３Ｄ化データを活用した視覚的で効率的な施設管理の取組みを推進しています。

ダムの巡視点検の運用高度化（遠隔巡視）

ダムの巡視においては、既設ＣＣＴＶおよび、ＵＡＶとＡＩ技術を組み合わせた遠隔巡視により、ダム貯水池の遠隔巡視による効率化を図っています。

ＡＩカメラを搭載したＵＡＶによる巡視を実施し、事象検知による巡視支援（見落とし防止）を行い、既設ＣＣＴＶによる監視と組み合わせることにより、従来のダム管理職員による巡視作業の負担が減り、コスト縮減にもなります。



遠隔巡視のイメージ



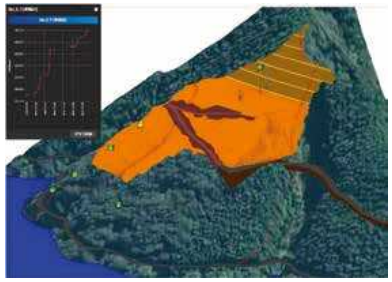
AIによる人・車両の検知結果

地すべり変位データのクラウド管理

各ダムの貯水時地すべり観測データを、クラウド上で一元管理できる統合システムを開発し、観測地点の情報に加えて、各地すべりの情報をGIS上に表示し、全ての事業関係者間が「いつ・どこで・どのように」地すべりが活動しているかを確認することができます。さらに、3次元モデル上に各観測地点の状態を表示することで、危険箇所を一目で把握できるようになり、工事での安全性向上につながります。



IoTを活用した計測データ連携機能



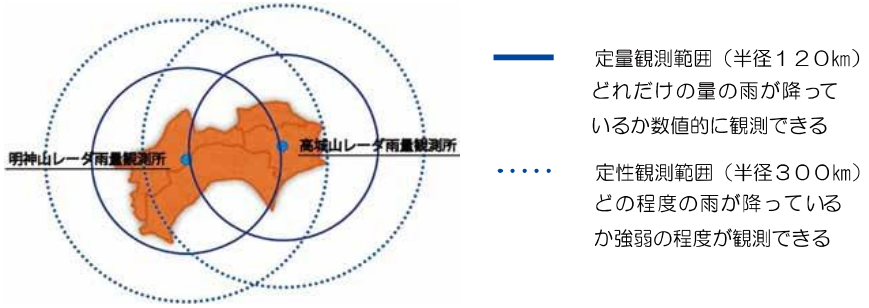
３次元モデル表示例

レーダ雨量観測所の運用管理

四国のレーダ雨量観測所の概要

吉野川ダム統合管理事務所では、四国全域での精度の高い雨量情報を得るため、明神山と高城山に設置されたレーダ雨量観測所2ヶ所の運用管理を行っています。

国土交通省では、高精度・高分解能（250mメッシュ）で、ほぼリアルタイム（配信間隔1分）のレーダ雨量情報（ＸＲＡＩＮ：エックスレイン）を、より多くの皆様に活用していただくため、「川の防災情報」で情報を提供しています。





明神山レーダ雨量観測所

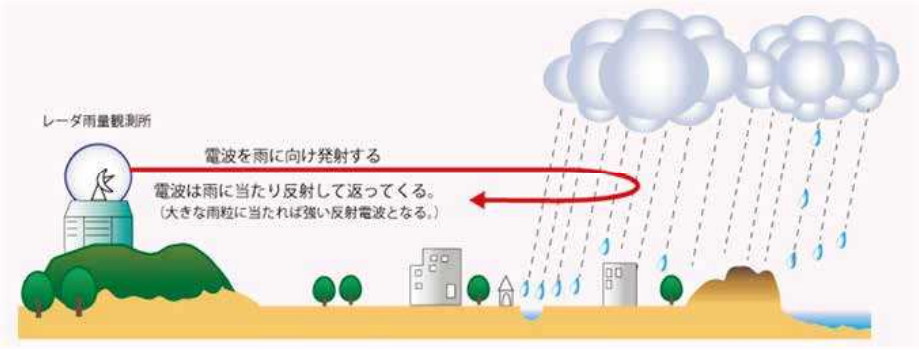


高城山レーダ雨量観測所

レーダ雨量計のしくみ

レーダ雨量観測所のドームの中には、パラボラアンテナが設置されています。このアンテナから発射された電波の一部が雨粒にあたり、反射してはね返ってきた電波を受信し、雨の状況を観測しています。

地上に設置している雨量計は設置した地点の雨量しか観測できないのに対し、レーダ雨量計は360度アンテナを回転させているので、半径300kmの広い範囲を観測することができます。



防災教育・総合学習に関する取組

学校と連携した各種教育支援

吉野川ダム統合管理事務所では、生徒達が自ら学び、自ら考える力を身につけ、よりよく問題を解決する資質や能力を育む機会を提供しています。また、ダムへの理解を深め、防災意識の向上につながるよう防災教育や水の大切さなどを学ぶ総合学習への支援などを行っています。

■ 防災教育の実施

中学生向けに、ダムの役割と重要性を学ぶ座学と、池田ダムの施設見学を行います。


池田ダムゲート管理橋


指令室での座学
ダムの役割や重要性を学ぶ


池田ダムの施設見学
ダムの仕組みを学ぶ

■ 総合学習支援

ダムを通じて、川の成り立ちや水の大切さ、災害への備えについて学習します。


川の成り立ちを学ぶ


水の大切さとダムの役割を学ぶ

■ キャリア教育支援

高校生向けに、将来を考えるきっかけ作りとして職業ガイダンスやインターンシップを行います。


職業ガイダンスや出前講座


インターンシップ

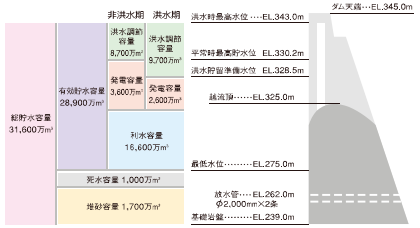
ダム諸元

■ダム名　■ダムおよび貯水池諸元　■貯水池容量配分図

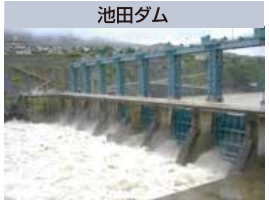
早明浦ダム



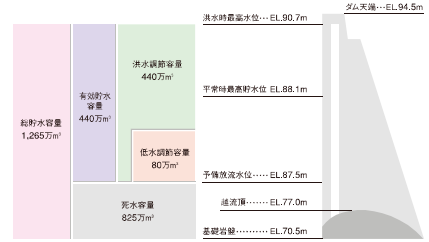
河　川　名…吉野川水系吉野川
位　　置…高知県土佐郡土佐町・長岡郡本山町
型　　式…重力式コンクリートダム
目　　的…洪水調節・不特定用水および河川維持用水・かんがい用水・水道用水・工業用水・発電
堤　　高…106m
堤 頂 長…400m
堤 体 積…約1,200,000m³
集 水 面 積…472km²
貯水池延長…19.0km
計画高水流量…4,700m³/秒
計画放流量…2,000m³/秒
調 節 流 量…2,700m³/秒



池田ダム



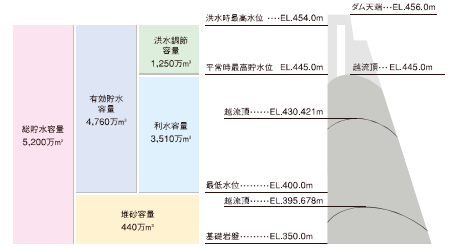
河　川　名…吉野川水系吉野川
位　　置…徳島県三好市
型　　式…重力式コンクリートダム
目　　的…洪水調節・不特定用水および河川維持用水・かんがい用水・水道用水・工業用水・発電
堤　　高…24m
堤 頂 長…247m
堤 体 積…約52,000m³
集 水 面 積…1,904km²
貯水池延長…9.17km
計画高水流量…11,300m³/秒
計画放流量…11,100m³/秒
調 節 流 量…200m³/秒



富郷ダム



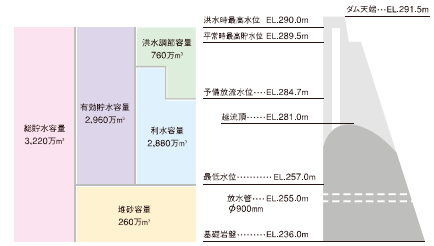
河　川　名…吉野川水系銅山川
位　　置…愛媛県四国中央市富郷町
型　　式…重力式コンクリートダム
目　　的…洪水調節・水道用水・工業用水・発電
堤　　高…106m
堤 頂 長…約250m
堤 体 積…約510,000m³
集 水 面 積…101.2km²
貯水池延長…5.3km
計画高水流量…(暫)1,700m³/秒
計画放流量…(暫)900m³/秒
調 節 流 量…800m³/秒



柳瀬ダム



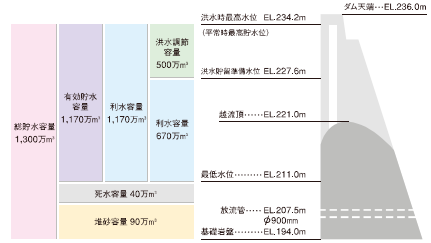
河　川　名…吉野川水系銅山川
位　　置…愛媛県四国中央市金砂町
型　　式…重力式コンクリートダム
目　　的…洪水調節・かんがい用水・水道用水・工業用水・発電
堤　　高…55.5m
堤 頂 長…140.7m
堤 体 積…約131,000m³
集 水 面 積…170.7km²
貯水池延長…7.98lm
計画高水流量…2,600m³/秒
計画放流量…1,400m³/秒
調 節 流 量…1,200m³/秒



新宮ダム



河　川　名…吉野川水系銅山川
位　　置…愛媛県四国中央市新宮町
型　　式…重力式コンクリートダム
目　　的…洪水調節・かんがい用水・工業用水・発電
堤　　高…42m
堤 頂 長…138m
堤 体 積…約80,000m³
集 水 面 積…214.9km²
貯水池延長…8.00km
計画高水流量…1,600m³/秒
計画放流量…1,200m³/秒
調 節 流 量…400m³/秒



事業の経緯

吉野川統合管理事務所のあゆみ

1949 (S24) 4	柳瀬ダム建設着手（愛媛県からの委託により建設省で事業着手）
1953 (S28) 10	柳瀬ダム完成
1954 (S29) 7	柳瀬堰提管理所を愛媛県伊予三島市金砂町に設置し管理業務に着手
1957 (S32) 4	柳瀬ダム管理所に名称変更
1961 (S36) 9	第２室戸台風により柳瀬ダムの流入量が既往最大を記録
11	「水資源開発促進法」制定
1963 (S38) 4	建設省早明浦ダム調査事務所開設（S40年４月から工事事務所）
1965 (S40) 4	吉野川水系工事実施基本計画の策定（岩津地点基本高水17,500㎥/s、計画高水流量15,000㎥/s、T＝1/80年）
1966 (S41) 11	吉野川が水資源開発促進法に基づく水資源開発水系に指定される
1967 (S42) 3	吉野川水系水資源開発基本計画の閣議決定（早明浦ダム建設事業）
4	早明浦ダム建設事業が、建設省から水資源開発公団に承継される
1968 (S43) 8	香川用水建設着手（昭和43年10月公団建設所設置）
9	池田ダム建設着手（昭和44年6月公団建設所設置）
1970 (S45) 3	新宮ダム建設着手（昭和45年8月公団建設所設置）
5	柳瀬ダム管理所の所掌事務が柳瀬ダムの維持管理、その他銅山川に係る河川の管理に変更（新宮ダム区間関連）
1973 (S48) 4	吉野川ダム統合管理事務所設置、柳瀬ダム管理所は、柳瀬ダム管理支所に名称変更
11	高知分水建設着手
1975 (S50) 3	早明浦ダム、池田ダム、香川用水の管理開始
4	吉野川ダム統合管理開始（現在の位置に新庁舎）
8	台風５号により早明浦ダムで計画を上回る流入量を記録
9	汎用電子計算機NEAC2200モデル375導入（以降逐次更新）
1976 (S51) 9	台風17号で早明浦ダムで計画を上回る流入量を記録
11	吉野川水系濁水調査委員会発足 新宮ダムの管理開始
1978 (S53) 1	早明浦ダム減勢工改良工事完成
1978 (S53) 3	高知分水事業完成、早明浦ダムを中核とする吉野川総合開発のうち公団関連事業が完了
1980 (S55) 3	柳瀬系テレメーター天堤山中継所新設
1982 (S57) 3	吉野川水系工事実施基本計画の改定（岩津地点基本高水24,000㎥/s、計画高水流量18,000㎥/s、T＝1/150年）
3	柳瀬管理支所庁舎増設、その後ダムコン更新
4	早明浦ダム周辺環境整備事業に新規着手
1983 (S58) 5	吉野川水系水資源開発基本計画の一部変更（富郷ダム建設事業の追加及び香川用水等の有効利用）
11	明神山レーダ雨量計完成
1984 (S59) 3	柳瀬ダム低水放流ゲート改築に着手
7	レーダ雨量計システム運用開始（河川情報システム運用も開始）
1987 (S62) 3	柳瀬ダム低水放流ゲート改築完成
4	早明浦ダム貯水池総合保全整備事業に新規着手
7	池田ダム「湖水まつり」始まる
1988 (S63) 9	明神山レーダ雨量計システム改造
1990 (H2) 3	吉野川北岸用水事業完成
4	池田ダムレイクパーク事業に新規着手
8	吉野川の源流を定め、源流碑の建立を行う
1991 (H3) 4	柳瀬ダム周辺環境整備事業に新規着手
1992 (H4) 4	吉野川水系水資源開発基本計画の全部変更（水需要計画の変更）
7	富郷ダム建設事業が建設省から水資源開発公団に承継（直轄管理区間の延長）
9	柳瀬ダム放流設備（クレストゲート）改造に着手
1993 (H5) 4	吉野川ダム統合管理事務所内に調査課を新設
7	台風５号により池田ダムの流入量が最大を記録
1994 (H 6) 1	吉野川ダム統合管理事務所開設20周年記念式典実施
7	吉野川の未曾有の渇水で早明浦ダムの利水容量が底をつく
10	柳瀬ダム40周年記念式典実施
10	早明浦ダム貯水池に米軍機墜落
1995 (H7) 5	早明浦ダム一万本植樹祭実施
1996 (H8) 3	銅山川で最も厳しい渇水が終焉 第１回「川の日吉野川スポーツ交流大会」実施（H20まで継続実施）
1997 (H9) 9	台風19号により早明浦ダム完成後第２位の洪水を記録
12	吉野川水系水資源開発基本計画の一部変更（富郷ダムの変更）
1999 (H11) 3	早明浦ダム選択取水設備改造
8	吉野川水系水資源開発基本計画の一部変更（香川用水施設緊急改築事業の追加）
2000 (H12) 3	高城山レーダー雨量計完成
3	管内光ケーブル整備着手
10	富郷ダム竣工
2001 (H13) 1	中央省庁等改革により国土交通省となる
3	富郷ダムの管理参入に伴う高水、低水及びデータバンクシステムの改造
4	富郷ダムの管理業務開始
2002 (H14) 2	吉野川水系水資源開発基本計画の全部変更（水需要計画の変更）
7	早明浦ダムの水源地域ビジョン策定
11	世界子ども水フォーラムin四国開催
11	吉野川ダム統合管理事務所ダムコン更新
2003 (H15) 11	吉野川ダム統合管理事務所開設30周年記念式典実施
11	銅山川３ダム水源地域ビジョン策定
2004 (H16) 2	池田ダム水源地域ビジョン策定
3	管内光ケーブル整備概成
8･10	台風16号、23号により池田ダムで計画を上回る流入量を記録
12	柳瀬ダム50周年記念式典実施
2005 (H17) 7	「森と湖に親しむ旬間」全国大会、早明浦ダムで実施
9	早明浦ダムの利水貯水率0％
9	台風14号により早明浦ダムで計画を上回る流入量を記録
2006 (H18) 3	吉野川ダム統合管理事務所 大型表示設備新設
3	吉野川ダム統合管理事務所 統一河川情報システム新設
2007 (H19) 3	総合水系環境整備事業（植栽工完了）
2008 (H21) 8	早明浦ダムの利水貯水率0％
2009 (H21) 3	気象モデルを用いた降雨予測システム及び分布型流出モデル導入
8	吉野川水系河川整備計画策定
2010 (H22) 8	銅山川弾力的運用社会実験開始
2013 (H25) 4	宮前地すべり対策事業 着手
2015 (H27) 8	銅山川弾力的管理試験試行運用開始
2016 (H28) 4	柳瀬ダム予備ゲート事業着手
2017(H29)12	吉野川水系河川整備計画変更
2018(H30) 9	台風24号により富郷ダム完成後第１位の洪水記録を更新（従前は平成25年の台風17号）
2020 (R2) 5	吉野川水系治水協定締結
2021 (R3) 3	早明浦ダム周辺地区かわまちづくり計画を登録
4	柳瀬ダムを（独）水資源機構に管理委託開始
2023 (R5) 3	柳瀬ダム予備ゲート事業完了

組織の概要

主な業務の概要

吉野川ダム統合管理事務所

- 吉野川ダム群の統合管理
- ダム区間の河川管理
- ダム統合管理のためのシステム開発
- レーダ雨量計利用のためのシステム開発
- 電気通信施設の調査、計画、設計、施工監督、維持管理
- レーダ雨量計維持管理
- 調査解析等
- 総合水系環境整備事業（水辺整備）
- 吉野川上流の河川総合開発に関する調査
- 柳瀬ダムの管理

※柳瀬ダムは令和３年４月より（独）水資源機構へ管理委託。

